

千葉都市モノレール 中期経営計画

2022～2024年度



千葉都市モノレール株式会社
Chiba Urban Monorail

はじめに

当社は、1988年3月に千城台～スポーツセンター間で営業を開始して以降、3度にわたる延伸を経て市内中心部と内陸部、臨海部を結ぶ千葉市の基幹的な公共交通機関としての役割を担っています。

懸垂型モノレールは、悪天候に左右されない安定した運行はもとより、車窓からの眺望性の良さなどから、単なる通勤や通学としての移動手段だけではなく、訪れた方々に楽しさや親しみを感じていただける千葉市のシンボリックな存在として認識されています。

当社は、3年毎に会社としての活動内容を「中期経営計画」として公表しており、現計画は2019年度（計画期間2020～2022年度）に策定しています。策定時は、輸送人員が7期連続で過去最高の実績を記録するなど順調に営業実績を伸ばしていた時であり、また、計画期間内に開催されるオリンピック・パラリンピックでは、千葉市の「懸垂型モノレール」をPRする絶好の機会と捉え、様々な営業活動を計画に盛り込みました。しかしながら、新型コロナウイルスの感染拡大により事業環境は激変し、2020年4月に発出された緊急事態宣言以後、輸送人員は大幅に減少、もはや企業努力では以前の業績まで回復することは難しい状況に直面しました。そのため、実態と大きく乖離してしまった「現中期経営計画」では適切な会社の活動内容を示すことができないと判断し、2021年度末で現計画を取り止めることとしました。そのうえで、現状に即した内容で新たな中期経営計画（2022～2024年度）を策定し、新年度から再スタートすることが適切と考えました。

新型コロナウイルスの感染拡大は、日々の生活スタイルを一変させ、これまでの公共交通の在り方も見直さなければならぬほどの大きな影響力を及ぼしたと言っても過言ではありません。

このようなこれまでに経験したことのない厳しい状況の中、社員一人ひとりが広い視野を持ち積極的に業務に取り組む姿勢と団結力により、この難局を乗り越えたいと考えています。また、社会的使命として持続可能な社会の実現に貢献すべく、SDGsのゴール達成に向け、さまざまな目標に取り組めます。

目次

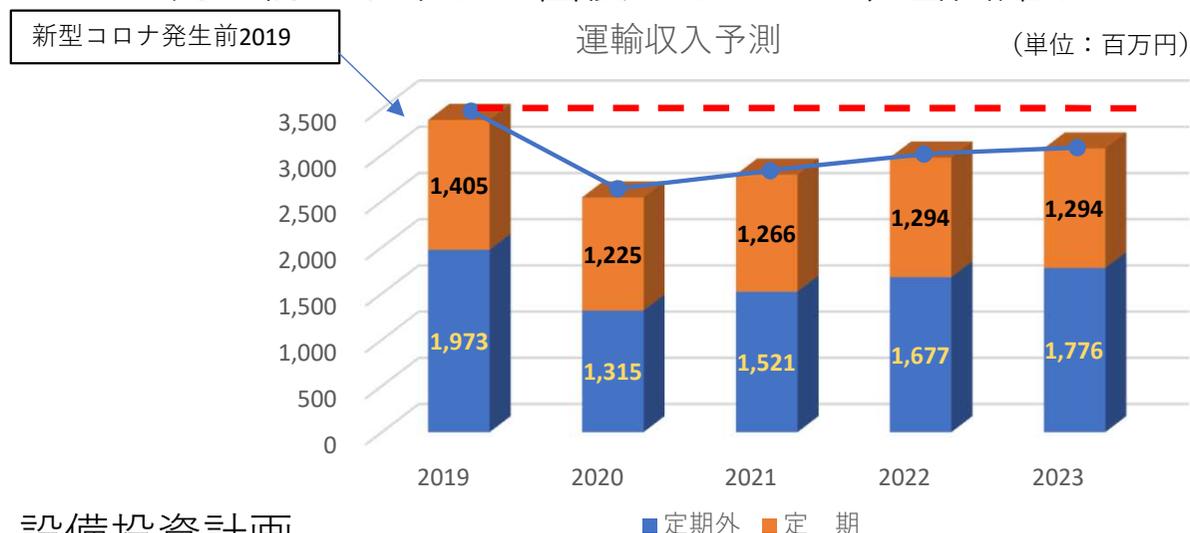
はじめに

1	現状認識	P 1
2	これまでの実績推移（グラフ）	P 2
3	前中期経営計画（2020-2021）の基本戦略 実施内容評価（1）（2）	P 3
4	中期経営計画の位置づけ	P 5
5	中期経営計画（2022~2024年度）将来の課題と基本戦略	P 6
6	中期経営計画 将来の課題	P 7
7	中期経営計画（2022~2024年度）基本戦略	
	Ⅰ 安全・安定輸送の継続	P 8
	Ⅱ 困難に打ち勝つ「企業力」の強化	P 9
	Ⅲ 誰にでもやさしいサービスの提供	P 10
8	損益収支予測	P 11
9	資金収支予測	P 12
10	数値目標	P 13

1. 現状認識

(1) 運輸収入の状況

- ・新型コロナウイルス感染症の影響のため輸送人員は大きく減少しており、この状況がコロナ発生前の水準まで回復することは、当面難しいと考えている。



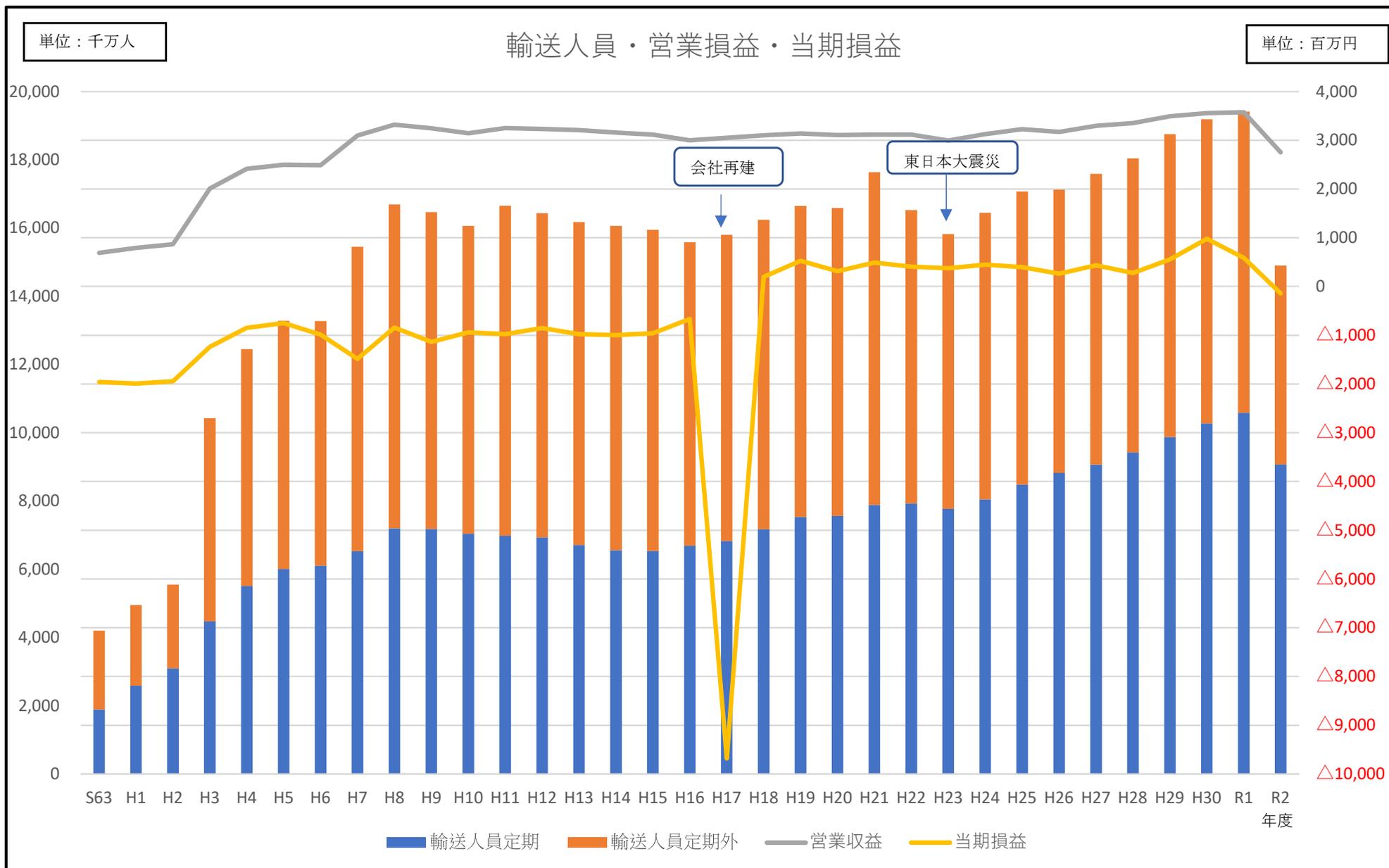
(2) 設備投資計画

- ・運輸収入の状況によっては、長期的な観点から、計画的な設備更新に支障が出る恐れがある。(2022~2024年度の主な設備更新計画 約38億円)
- ・最大規模の投資といえる「運行管理システム」の更新 2022年度
- ・車両更新計画 導入編成数の見直しを検討(当初計画4編成更新を→1編成に見直し)

(3) 基本的方針(概略)

- ・鉄道事業者の使命である安全・安定輸送の継続や収入増、経費節減を徹底し、経営に反映していく必要がある。
- ・千葉市において、将来に向けた「モノレール事業の整備等のあり方」を検討中のため、脱炭素化の推進や地域鉄道としての存在感醸成等を連携して行う。

2. これまでの実績推移



3. 前中期経営計画（2020－2021）の基本戦略 実施内容評価（1）

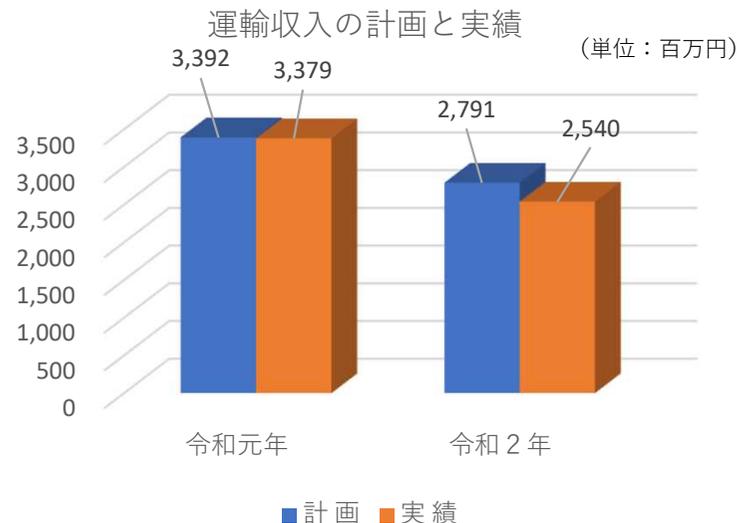
基本戦略	(1) 経年劣化設備の更新	評価・成果	実施した内容及び見直し等
I 安全・安定輸送 の継続	・ 新型車両への更新（2020年度2編成、2022年度2編成）	○	2020年度2編成更新を実施 2022年度は1編成の更新に変更
	・ 運行管理システムの更新（2022年度）	○	計画どおり進行中（2022年1月新システムに更新）
	・ 駅放送設備、駅ITV設備更新（2020年度）	△	駅放送設備更新実施（2021年6月更新完了）駅ITV装置は2022年度要求
	・ 車両基地電気室設備更新（2020年度～2022年度）	×	実施を延期（2027～2028年度に延期※劣化状況により前倒しが必要）
	・ 殿台変電所更新（千葉市発注 2018年度～2022年度）	○	計画どおり進行中（2021年6月高配盤更新、2022年度き電開閉所設備更新）
	・ 千葉駅 転てつ機更新（2020年度から継続）	○	2021年11月更新完了（千葉駅11号分岐）
	(2) 経年劣化設備の点検強化	評価・成果	実施した内容及び見直し等
	・ 落下物対策、軌道桁伸縮部の変状調査の継続、桁上高配ケーブル工事設計着手	○	定期点検及び千葉市維持管理計画の中で実施 2022年度高配ケーブル着手
	・ 車両懸垂装置枕梁部クラック調査、車両電子機器劣化調査及び対策	○	定期点検にて実施
	(3) 教育・訓練	評価・成果	実施した内容及び見直し等
・ 安全管理体制の充実（安全対策会議、安全対策委員会及び安全推進部会の連携強化）	○	計画どおり実施	
・ 異常時、災害時対応訓練・教育の充実	○	異常時、災害時を想定した訓練を実施	
・ 運輸安全マネジメントの着実な取り組み（安全重点施策の策定・実施。PDCAサイクルによる継続的改善）	○	計画どおり実施	
・ ヒヤリハット事例を活用した安全意識の向上	○	安全推進部会で標語の作成活動等を実施	
基本戦略	(1) お客様満足度向上	評価・成果	実施した内容及び見直し等
II さらなるサービス 向上と利用促進	・ お客様の声の反応やお客様目線でのサービス提供	○	「お客様の声」を尊重した対応を実施
	・ 異常時における情報発信強化の手法の検討	○	異常時の情報発信元の確認及び規程整備を実施
	・ 既存車両の乗り心地改善（プログラム改良）	○	計画どおり実施（2020年6月完了）
	・ デジタルサイネージによる駅案内表示の検討	×	課題として調査を継続
	・ 列車ダイヤの見直しの検討（混雑緩和）	△	混雑緩和を目的としたダイヤ変更は必要ないと判断
	(2) 訪日外国人旅行者の取り込み	評価・成果	実施した内容及び見直し等
	・ 沿線ホテルや千葉市観光案内所、成田空港などへの多言語沿線パンフレットやPR団扇の配置	×	コロナにより中断
	・ 外国人向けフリーマガジンなどへのPR広告掲出	△	一部計画を実施
	・ 千葉市アイデンティティなどを活用した沿線魅力の向上（写真スポットなど情報収集・発信）	×	コロナにより中断
	・ 受入環境の更なる充実（係員対応、案内表示など）	×	コロナにより中断
(3) 情報発信	評価・成果	実施した内容及び見直し等	
・ SNSによる情報発信（モノレールに乗ってみたい・見てみたい）	△	コロナ禍で可能な限りの情報を発信	
・ 沿線地域・施設などとの連携（千葉市アイデンティティを結ぶ移動手段）	×	コロナにより中断	
・ 各種イベント活用（観光イベントなどへの積極的参加）	×	コロナにより中断	
・ 千葉市シンボルとしての魅力向上（ギネス世界記録保有）	×	コロナにより中断	

○：計画どおり達成 △：計画内容一部変更・延期 ×：計画取り止め・未着手

3. 前中期経営計画（2020－2021）の基本戦略 実施内容評価（2）

基本戦略	(1) 収入増・経費削減	評価・成果	実施した内容及び見直し等
Ⅲ 将来を見据えた 経営環境の強化	・運輸収入増のための新たな施策の検討（動物公園、加曾利貝塚などとの連携）	△	観光庁補助金を利用した市内ホテル宿泊者向け沿線観光施設ツアーを実施
	・付帯事業の充実（広告業、地域限定旅行業）	△	車両基地見学会を核とした貸切列車の運行及び他事業者（鉄道・バス各社）とのコラボツアーを開催
	・コストに対する意識改革（透明性、競争性及び公正性の確保）	○	希望競争入札の推進 2020年18件 2021年10件 成果の報告を実施
	・業務改善提案制度の更なる推進	△	経費削減プロジェクト活動
	・更なる将来に向けた検討（効率的で利便性の高い駅、車両などの設備）	○	各課において提案件数の目標設定など積極的に取り組んだ
		△	千葉市と協議を継続
	(2) 職場環境改善	評価・成果	実施した内容及び見直し等
	・働き方改革への対応（有期雇用労働者の処遇検討、労働時間の適正管理、定年延長の検討）	△	有期雇用労働者の処遇について継続検討
	・事業継続計画（BCP）策定の検討	○	事業継続計画を見直し
	・情報セキュリティ体制の強化	○	情報セキュリティ規程整備及び社員教育を実施
・健康管理の充実	○	安全・衛生委員会で産業医から意見を聴取し健康管理の啓発を継続実施	
(3) 社会貢献	評価・成果	実施した内容及び見直し等	
・低炭素化に向けた取組（省エネ車両への更新、回生電力貯蔵装置の導入など）	○	0形車両へ2編成更新 回生電力貯蔵装置の設置（2022年1月更新）	
・誰もが利用しやすい交通形態（バリアフリーの推進、ユニバーサルデザインの採用）	△	千葉市バリアフリー基本構想推進協議会に参画 まち歩き点検への協力	
・遊休スペースの活用（フリースペースなどの有効活用検討）	○	千葉駅に「ココデスク」、「マートステーション」を設置	
・高齢者利用促進策の検討	×	調査・検討を継続	

○：計画どおり達成 △：計画内容一部変更・延期 ×：計画取り止め・未着手



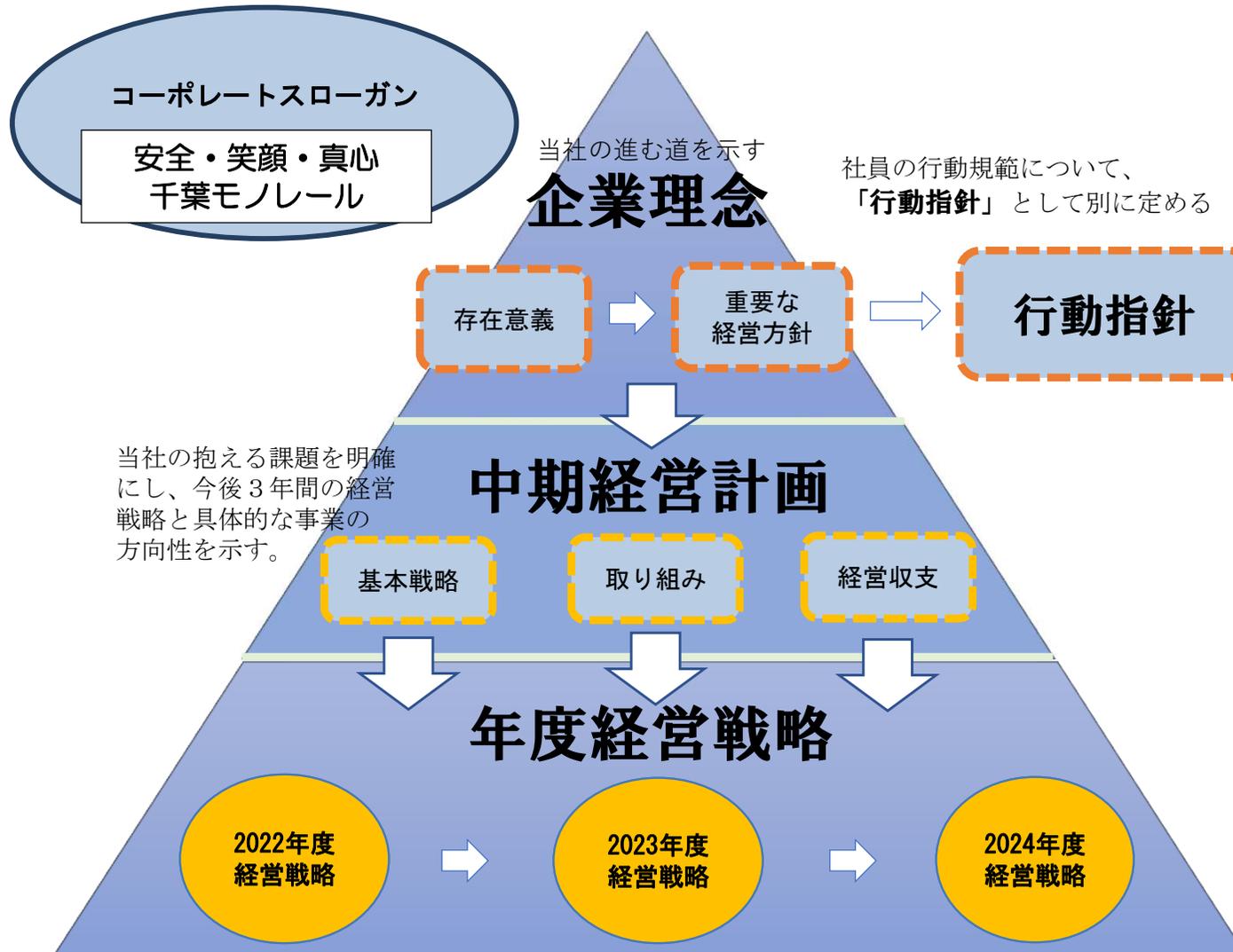
基本戦略に基づく各施策の実行については、新型コロナウイルス感染拡大により、様々な企画・イベント行事を中止。オリンピック・パラリンピックを契機に計画していた利用促進策についても中止する状況となった。

社会的には、新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発表。テレワークの推進、実質的に外出や行動が抑制され、輸送人員は大幅に減少した。

令和2年度運輸収入計画の見直しを行い、前年度実績から約17%減を目標値としたが、最終実績は約25%減という厳しい結果となった。

4. 中期経営計画の位置づけ

当社のお客様への姿勢を明確に表す



企業理念

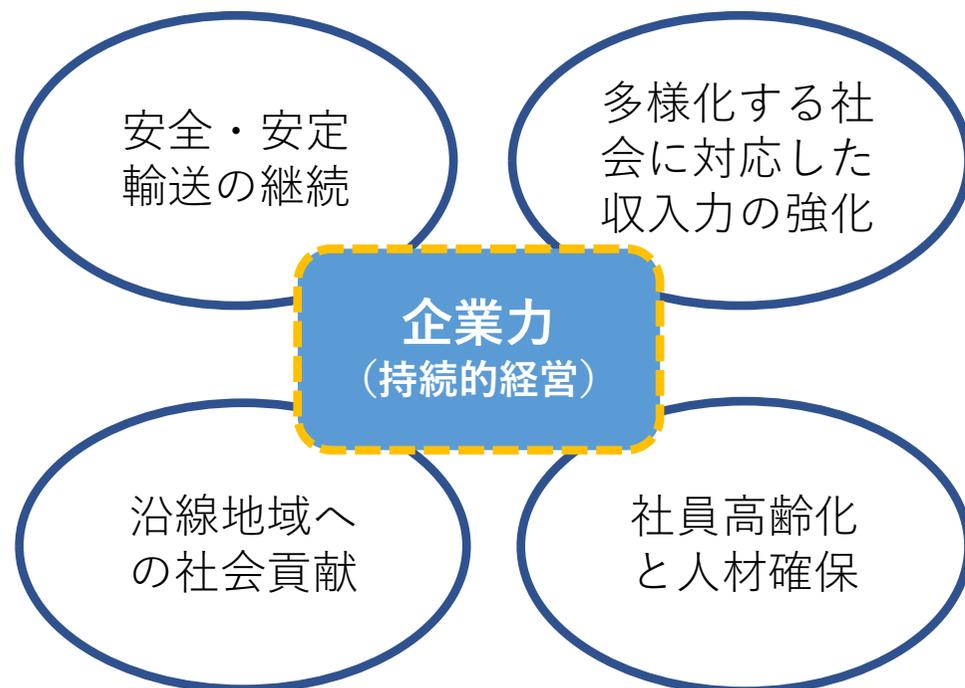
- “人と街を結ぶ”事業を通して、地域の発展に貢献します。
- 安全・安定輸送を提供し、常にお客様から信頼される公共交通を目指します。
- 安心、快適にご利用いただくため、お客様の立場に立ったサービスを提供します。
- 創意と工夫により、互いに高め合う活力ある職場をつくります。

行動指針

- 私達は、お客様の安全を最優先します。
- 私達は、法令を遵守し、誠実に行動します。
- 私達は、お客様に感謝し、真心を持ったサービスを提供します。
- 私達は、沿線の人々とのつながりを深め、地域の活性化に努めます。
- 私達は、活発にコミュニケーションを行い、明るい職場をつくります。

5. 中期経営計画（2022~2024年度）将来の課題と基本戦略

○将来の課題



新型コロナウイルスの感染拡大により、事業活動の見直しが求められる状況の中、将来の課題をしっかりと把握し、それに対応した戦略の着実な取り組みが企業存続に繋がる力となる。

○基本戦略

I 安全・安定輸送の継続

- ・ 予防保全的な施設維持により安全性や信頼性を将来にわたり確保
- ・ 計画的な設備更新の構築と徹底したコスト低廉化の探求
- ・ 事故・災害発生時の対応力強化

II 困難に打ち勝つ「企業力」の強化

- ・ 将来を見据えた経営体質の強化
- ・ 沿線の観光資源との連携等、さまざまな利用促進施策の推進
- ・ 脱炭素化を促進する企業活動を拡大
- ・ 運輸外事業の育成と二次交通等の充実による利用圏域の拡大

III 誰にでもやさしいサービスの提供

- ・ 地域とのふれあいを大切にし、お客様の声を聞き、お客様に寄り添った接遇
- ・ 交流の拠点となる駅作り
- ・ 有益で適切な情報発信

○安全・安定輸送

安全・安定輸送は、会社経営の一番重要な基盤であることを会社全体で認識し、その継続に取り組む。経年劣化した設備の計画的更新はもちろん、安全管理体制のさらなる充実と異常時・災害時などの非常事態にも対応できるよう、実践的な訓練及び教育を徹底する。また、誰でも安全に安心して利用できるバリアフリーへの対応も引き続き推進する。

○多様化する社会に対応した収入力の強化

輸送人員の増加対策は喫緊の課題と認識していることから、社会状況の変化に適応し、将来の需要予測を踏まえて、利便性を考慮した運行ダイヤ・運賃を構築するため、他社の動向も参考にしつつ柔軟に対応する。また、ファミリー層・シニア層・学生層など、各年齢層に対する利用促進策に注力していく。

○沿線地域への社会貢献

脱炭素化社会に向けた「将来のあるべき姿」を明確にすることから、千葉市が進めるモノレールの将来に向けた「モノレール事業の整備等のあり方」によるインフラ設備の有効活用を含めた街づくりに積極的に参画する。

○社員の高齢化と人材確保

鉄道の安全を維持するため専門性の高い社員を育成するには一定の年数を必要とする。社員の高齢化に伴う新たな人材の確保は容易ではなく、併せて国の施策である定年延長等の「働き方改革」への対応も行わなければならないことから、重要な課題と位置づけ取り組む。

7. 中期経営計画（2022～2024年度）基本戦略



I 安全・安定輸送の継続

(1) 確実な保守点検の継続

経年劣化設備の点検強化（長寿命化対策）

- ・ 走行路面点検及び部分交換
- ・ 軌道設備調査
- ・ 落下物対策
- ・ 駅舎雨漏り対応
- ・ 車両延命に係る点検項目の追加



車両点検



軌道点検

(2) 計画的な設備更新

車 両：0形7次車1編成を導入（2022年度）

通信設備：中央指令所及び全駅のITV装置更新（2022年度）

車両基地通信ケーブル更新（2023年度）

信号設備：千葉みなと駅のATC/TD装置更新（2022年度～2024年度）

車両基地信号設備・継電連動制御盤更新（2023年度）

分岐設備：千葉駅12号分岐更新〔千葉市設備〕（2022年度～2023年度）

車両基地分岐設備・転てつ機更新（2022年度～2024年度）

電気設備：駅電気室6駅更新〔千葉市設備〕（2022年度～2024年度）

車両基地・本社電気室更新（2023年度～2024年度）



0形7次車



千葉駅分岐



指令所ITV

(3) 事故・災害発生時の対応力強化

運輸防災マネジメント

- ・ 災害に応じた対応マニュアルの策定
- ・ 安全管理体制のさらなる充実
- ・ 事故・災害発生時の対応訓練・教育の充実

7. 中期経営計画（2022~2024年度）基本戦略



II 困難に打ち勝つ「企業力」の強化

(1) 将来を見据えた経営体質の強化

- ◇安定的な財務基盤の構築
 - 収入確保と経費節減の徹底
- ◇職場環境の改善
 - 社員への教育活動の充実や経営状況に関する正しい情報の伝達
 - 働き方改革への対応（ダイバーシティ経営の推進 雇用形態の多様化）
- ◇カーボンニュートラルへの取り組み
 - 再生可能エネルギーの利用促進
 - 環境に優しいモノレールへの利用転換促進



社内教育の充実

(2) 増収を見据えた新たな利用促進施策

- ◇利便性の強化
 - 各年齢層に対応した運賃施策の検討
 - お客様の利便性に即した企画乗車券の検討
 - 利便性を考慮した運行ダイヤの検討
- ◇沿線施設と連携した観光プランの策定・実施（旅行業拡大）
 - ホテル、沿線施設、バス事業者と連携した車両基地見学の充実
- ◇駅構内営業の強化
 - 遊休スペース活用や新広告媒体の開発



構内スペースを物販に貸出



車両基地見学

(3) 利用圏域の拡大

- ◇二次交通の充実（パーク&ライド、シェアサイクル、グリーンスローモビリティなど）



テレワークスペース「ココデスク」

7. 中期経営計画（2022～2024年度）基本戦略



Ⅲ 誰にでもやさしいサービスの提供

(1) 笑顔あふれる真心を込めたお客様対応

◇お客様に寄り添った接遇

- 駅員・運転士全員がサービス介助士資格を取得
- お客様の声を大切にされた改善を推進
- モノレール祭り等のイベント企画によるお客様との“ふれあい”を推進

(2) 交流の拠点となる駅作り

◇駅設備の充実

- 駅トイレのリニューアル、多機能トイレの設置
- ステーションギャラリーの有効活用

(3) 情報発信の充実・強化

◇ホームページ・SNSを有効に活用し、有益で適切な情報を発信

- 活動状況の発信（PR活動、バリアフリーや脱炭素化への取組み状況など）
- 沿線の魅力紹介、グッズ・イベント情報発信
- インターネットを活用したグッズ等の販売拡大



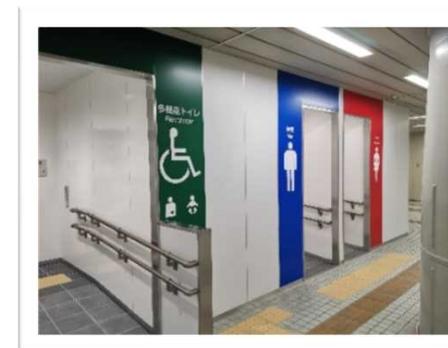
真心を込めた対応



ちばモノレール祭り



ステーションギャラリー



駅トイレリニューアル

8. 損益収支予測

(単位:百万円)

項目		2021年度 (見込)	2022年度	2023年度	2024年度	2022~ 2024年度
営業収益	運輸収入	2,830	2,963	3,069	3,109	9,141
	運輸雑収	191	206	191	191	588
	合計	3,021	3,169	3,260	3,300	9,729
営業費		2,968	3,084	3,115	3,303	9,502
営業損益		53	85	145	△3	227
営業外損益		47	45	41	42	128
経常損益		100	130	186	39	355

9. 資金収支予測

(単位:百万円)

項目	2021年度 (見込)	2022年度	2023年度	2024年度
収入 (借入金及び補助金含む)	3,093	4,824	3,664	3,355
支出	2,982	5,147	4,545	3,197
主な設備計画額	380 放送装置	2,352 運行管理システム I T V 装置	1,731 駅務機器 車両1編成 ATC	246 ATC
単年度資金過不足	165	△323	△881	158
前期繰越	2,897	3,062	2,739	1,858
資金残高	3,062	2,739	1,858	2,016

10. 数値目標

項目		2021年度 (見込)	2022年度	2023年度	2024年度
広告収入		53,019千円	58,000千円	59,000千円	60,000千円
構内営業収入		61,837千円	65,000千円	65,500千円	66,000千円
旅行業収入		632千円	4,000千円	4,500千円	5,000千円
電力使用量 (2018年度実績9,900千kwh に対して)		9,506千kwh (△4.0%)	9,041千kwh (△8.7%)	8,690千kwh (△12.3%)	8,633千kwh (△12.8%)
ICカード 利用率(2020年 度実績に対して)	定期外	81.4%	82.0%	82.5%	83.0%
	定期	91.8%	92.2%	92.6%	93.0%



千葉都市モノレール株式会社

Chiba Urban Monorail

